第７回北海道広域化推進プラン策定に関する検討会
開催概要

日　　時　令和４年（2022 年）１月 31 日（月）15 時 30 分から 17 時 20 分
開催方法　Web 開催
出 席 者（敬称略）
【構成員】

宇野　　二朗	座　長	横浜市立大学国際総合科学群教授
構口　　学	構成員	木古内町建設水道課長
田中　　治雄	構成員	旭川市水道局上下水道部水道施設課長
谷川　　竜也	構成員	谷川竜也公認会計士事務所代表
原田　　暢裕	構成員	中空知広域水道企業団企業局営業課長
松井　　佳彦	構成員	北海道大学大学院工学研究院教授
最上屋　和弘	構成員	札幌市水道局総務部企画課長

【オブザーバー】

牛島　　健	北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所地域研究部 地域システムグループ研究主幹
長坂　　晶子	北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場森林環境部 環境グループ研究主幹
森野　　祐助	北海道立総合研究機構産業技術環境研究本部 エネルギー・環境・地質研究所地域地質部沿岸・水資源グループ主査
永井　　宏佳	北海道総合政策部地域行政局行政連携課課長補佐
安藤　　直樹	北海道総合政策部地域行政局行政連携課連携係長

【事務局（環境生活部環境局環境政策課水道広域化推進室）】
松田水道広域化推進室長、高橋課長補佐、池谷主幹、久々江主幹、
鹿又主査、小峰主査、小椋技師

議題
1　ハード連携シミュレーション業務の概要（中間報告）について
2　北海道広域連携推進プランの構成の考え方について
3　今後のスケジュールについて

議事概要

1　開会

2　議題

（1）ハード連携シミュレーション業務の概要（中間報告）について

資料1に基づき事務局から説明

〇意見交換

＜構口構成員＞

・方向性として地域毎にやれることとやれないことが見えたので、それを踏まえて、各自治体の考え方、方向性が見出せたら良い。また、道のリーダーシップが大切である。

＜田中構成員＞

・結果を自治体にどのようにわかりやすく説明していくかが重要である。

＜谷川構成員＞

・建設費算定の前提条件として、73 年で１回更新としているが、機械電気設備は 25 年更新を一般的とすると２回更新が必要ではないか。

＜事務局＞

・実際の更新のタイミングは自治体により異なるため、更新回数は最低限１回を見込んだ。

＜原田構成員＞

①地域で最終的にどこにも該当しない事例があるか。

②自治体が単独で更新を予定している場合は、シミュレーションに反映するのか。

＜事務局＞

①抽出がない３地域において、集約か水源活用のいずれかで最も条件の良いものを１事例選定し、概略施設計画を作成している。

②自治体の更新計画等がある場合はそれを踏まえて当該自治体とともに検討していく。

＜松井構成員＞

①値の精度が絶対値、相対値ともに重要。自治体に信頼性の高い資料として受け止めてもらうためには、条件によってどの程度結果が変わるのか、「感度解析」を行って、結果を幅を持って示した方がいい。

②（集約する）Ｘ自治体とＹ自治体のトータルの効果も重要。トータルの効果について、Ｘ自治体とＹ自治体の双方に効果が生まれるような調整ができるのではないか。

＜最上屋構成員＞

①自治体への説明はプラン策定の後か。

②シミュレーションで効果のあったものについて、Ｒ元年度に実施した将来推計に加えられないか。

＜事務局＞

①プラン策定前に関係自治体に個別に説明する予定。

②ご指摘のとおり、ソフトとハードのシミュレーション結果を反映した将来設計を実施する。

＜宇野座長＞

①前提条件によって効果額がマイナスからプラスに転じる可能性や、片方の効果がマイナスでも合計ではプラスとなるケースがあるので、結果には幅を持たせるとともに、マイナスの場合もプラスにするための提案ができれば良い。

②可能性のあるものについて幅広く検討の対象とするため、効果のレベルをパターン分けして示してはどうか。

③水量や水源で一旦抽出から落ちたが、工夫次第で効果の出る可能性のあるケースが漏れないようにしてほしい。

＜事務局＞

③水源活用の水源については、既存資料のデータを補完して活用の可能性を広げられないか、道総研の助言を受けながら検討しているところ。

（2）北海道広域連携推進プランの構成の考え方について

事務局から説明

○意見交換

＜構口構成員＞

・ソフト事業の連携については、どう進めるのか地域で議論を始める必要がある。

＜田中構成員＞

①ハード連携シミュレーションの方法を具体的に記載するなど、自治体にとってわかりやすい内容にすべき。

②ソフトとハードの効果の表記をプラスマイナス統一する必要がある。

＜谷川構成員＞

・プランのローリングが必要であるとともに、実施状況につて各地域から年度毎に報告をもらいながらプランを遂行していくのがよいのではないか。また、そのことをプランにも記載してはどうか。

＜原田構成員＞

・プランのローリングは何年が適切なのか検討する必要がある。

＜松井構成員＞

・道内水道の抱える課題をきちんとメッセージとして発信するような現状分析でないと広域連携の必要性が理解されない。

＜最上屋構成員＞

・特にハード事業は各自治体の意向を反映すべきであり、各自治体から意見を出せるように時間的な余裕を持って進めてほしい。

＜宇野座長＞

・プランでは、地域毎にソフト及びハード事業の優先順位を考える必要がある。

・水道技術の維持の観点から、中長期的には経営主体がどうあるべきかについても検討していく必要がある。

（3）今後のスケジュールについて

資料2に基づき事務局から説明　（特に意見なし）

３　閉会